

令和3年度 こども発達支援センター青空  
第7回 保護者研修

## 正しい見立てと 様々なプロンプト法



こども発達支援センター青空

こども発達支援センター青空

1

## 見立てとは

- 見立て = 見て、選び定めること  
診断  
評価



子どものことを正確に知る

こども発達支援センター青空

2

## 見立ての意義

- 子どものことを正確に知る
- 一人ひとり違う特性を把握する
- 得意なこと、苦手なことを把握する
- 今できることを確認する
- どんな支援が必要か確認する

本人を理解する上で重要

こども発達支援センター青空

3

## 見立てをする上で大切なこと

- 客観的な観察
  - ▶冷静な状態で子どもの様子を見る
    - ・「どんな状態?」「どんな環境?」「何をしている?」
- 多角的な視点
  - ▶一方的な見方 → ~~×~~
  - ▶偏った見方 → ~~×~~

こども発達支援センター青空

4

## 何に見える？

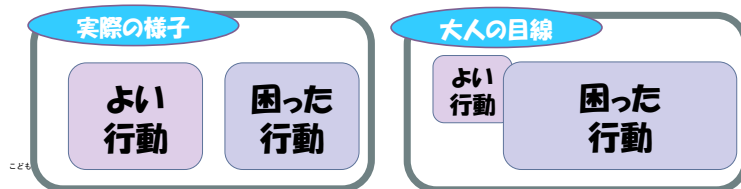


こども発達支援センター青空

5

## 偏った見方になっていると・・・

- できないことばかりに目がいく
  - 本人の能力以上のものを求める
- 失敗体験につながってしまう



こども

6

## 評価

こどものことをよく知ろう

こども発達支援センター青空

7

## 評価とは？

- 本人のことを理解すること（特性を踏まえて）

特性の理解



こどもの理解

- ・社会性の特徴
- ・コミュニケーションの特徴
- ・想像力の特徴
- ・その他 感覚について  
能力のばらつき

- ・得意なこと
- ・苦手なこと
- ・好きなこと
- ・嫌いなこと
- ・興味、関心

8

こども発達支援センター青空

## 診断と評価

- 診断
  - ➡ その人が発達障がいであるかどうかをみる  
特性に合わせた支援を受けるため
- 評価
  - ➡ 一人一人の違いや特徴を見る  
支援の中身をこどもや家族のニーズに  
あったものにするため

こども発達支援センター青空

9

## 評価の目的

- 持っている能力や可能性を明らかにする
- 支援の目標をはっきりさせる
- 支援する人どうしの共通理解を得る
- 支援の効果や妥当性の判定のため

思い込みで関わらないために

こども発達支援センター青空

10

## 評価の種類

- フォーマルな評価
- インフォーマルな評価



こども発達支援センター青空

11

## フォーマルな評価

- ◇ 標準化された心理検査
  - 客観性・共通理解
- ・ 発達検査／知能検査  
新版K式発達検査、WISC-IV、WEIS-III
- ・ 教育診断検査  
PEP-3
- ・ TTAP（移行アセスメントプロフィール）

こども発達支援センター青空

12

### PEP-3

- 自閉症スペクトラムと関連する発達障がいの子もたちの能力や特性を評価するために開発された発達検査
- 行動の特徴や、発達のアンバランスな部分（得意なこと・苦手なこと）を明らかにし、支援の手掛かりを得ることを目的としている。

こども発達支援センター青空

13

### インフォーマルな評価

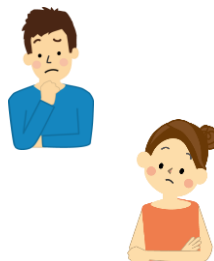
- 毎日の暮らしの中で、活動を行っている様子をよく観察して、こどもの能力や状態を把握する
  - ・生活調べ表—生活のリズムを知る
  - ・生活スキルチェックリスト—今できている段階を知る
  - ・好き嫌い表—興味関心を知る
  - ・課題分析表

こども発達支援センター青空

14

### インフォーマルな評価の視点

- 客観的に行動を観察する
  - 全体的な行動の特徴を把握する
  - 周囲との相互作用に着目する
  - 効果的な支援の方法を考える
  - 思い込みで判断しない
- 過大評価・過小評価



こども発達支援センター青空

15

### 全般的な観察をする

- 【観察場面】自由時間や自然な場面を利用する
- 【観察内容】障がい特性の質や困難さを確認する
- 【注意点】
  - 肯定的な視点で見る

水遊びが止められない  
集団活動に参加できない  
飛び出しや走りまわる



水遊びが大好き

一人で過ごすことができる

ストレスや混乱を行動で伝えようとしている

こども発達支援センター青空

16

## 評価から支援へ

得意なことを活かして、苦手なことを補うために

## 評価から支援へのプロセス

評価

できること・できないこと、得意なこと・苦手なこと、興味関心を把握する

その人にあった支援へ導く

## 評価から考えられること

- できること、できそうなことから取り組める
- 得意なことを活かし、苦手なことを補える
- 本人の理解のレベルを知ることができる
- 嫌なことやわからないときの「表現」を教える
- 安心して過ごせる環境を用意できる
- 見とおしを持てる生活を提供できる
- ストレスや混乱の原因を取り除くことができる

## 苦手なこと

- 抽象的なものの理解すること
- 聴覚情報を処理すること
- 未来や相手のことを予測したり想像すること
- 興味関心がないものを取り扱うこと
- 長い言葉かけを理解すること
- 自分の意見を言葉で表現すること
- 変更を求められる活動への参加
- 雑然とした環境で、臨機応変に対応して、適切に過ごすこと

## 得意なこと

- 具体的なものを理解
- 視覚情報の処理
- 過去の記憶や経験に基づいての行動
- 興味関心のあるものの取り扱い
- 短い言葉かけの理解
- 自分の意見を行動で表現
- 見通しの持てる活動への参加
- 整然とした環境でパターンの過ごすこと

こども発達支援センター青空

21

## たとえば・・・こんな場面



こども発達支援センター青空

22

## じつは・・・

遊びが終われない  
玩具を片付けない



片付ける場所・  
終わりを明確にする



どこに片付けたらいいか  
分からない?  
どうなれば、終りなのか  
分かりにくい?

こども発達支援センター青空

23

## こうしたらどうでしょう？

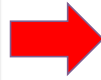


こども発達支援センター青空

24

たとえば・・・（スイッチ）

見えるから 気になる



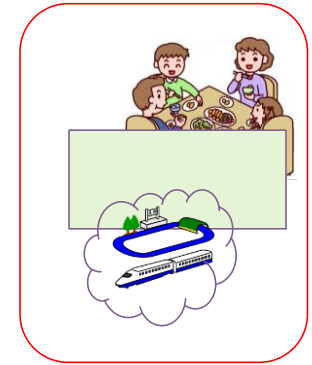
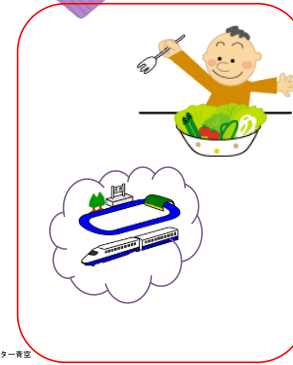
見えなくする



こども発達支援センター青空

25

たとえば・・・（食事場面）



こども発達支援センター青空

26

何も伝えていない

こんなところで、  
そんなことしていいって  
だれがいましたか？



こども発達支援センター青空

27

コミュニケーションの評価

こども発達支援センター青空

28

## コミュニケーションの評価の仕方

### 【理解】

- 場面に関係ないことを伝えて、応じられるか
- ことわざなど抽象的な表現の理解ができるか  
例、足が棒になる、耳にタコができる
- あいまいな指示の理解ができるか  
例、この辺に座って  
手をきれいに洗って  
ちゃんとしなさい

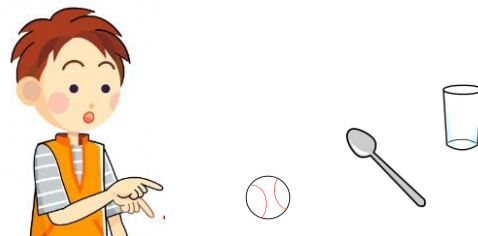
こども発達支援センター青空

29

## たとえば・・・

### 【理解】

- ・言葉だけで分かっているのかどうか



こども発達支援センター青空

30

## 情報を整理して評価する

### 【理解】

- ・言葉で分かる
- ・絵で分かる
- ・サイン

ボール、コップ、  
スプーン



こども発達支援センター青空

31

## コミュニケーションの評価の仕方

### 【表現】

- どんな方法で  
(言葉、文字、身振り、絵、発声等)
- 何のために、どんな意図で  
(要求、注意喚起、拒否、社会的習慣等)
- どんな場面で
- 誰に

自発であるかどうか

こども発達支援センター青空

32



## どうやって伝える？ (拒否)

1



2



こども発達支援センター青空

33

## 支援方法 — リマインダーの利用



いりません



こども発達支援センター青空

34

## 支援方法 — いりません！のお皿

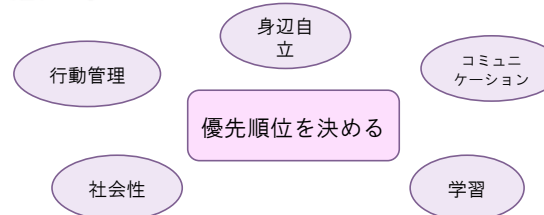


こども発達支援センター青空

35

## 評価から支援へ

- 評価から、できること、できないこと、得意なこと、苦手なこと、興味関心を把握したら、その子にあった支援へ導く



こども発達支援センター青空

36

## 課題分析とプロンプト

一人一人にあった自立を目指して

こども発達支援センター青空

37

## 課題分析の前に・・・

### 【課題の選択】

- こどもにやって欲しいこと、させたいことを考える



こども発達支援センター青空

38

## 評価

- 大人が考えた「やってほしいこと」を、実際にさせてみて評価し、課題を選択する



こども発達支援センター青空

39

## 課題選択のポイント

- 興味・関心があるか
- 強味（得意なこと）がいかされている
- スキルがあるか
- 本人にとって意味があるか
- 自立して行える可能性があるか
- 生活の中で役に立つか

こども発達支援センター青空

40

## Aちゃんの課題選択

ポイント	かに玉料理	コンビニ買い物	学校準備
興味・関心があるか	○	○	△
強味がいかされているか	×	△	×
スキルがあるか	△	△	○
本人にとって意味があるか	△	○	○
自立して行える可能性	×	△	△
生活の中で役に立つか			

○ : ある △ : 少しある × : ない

41

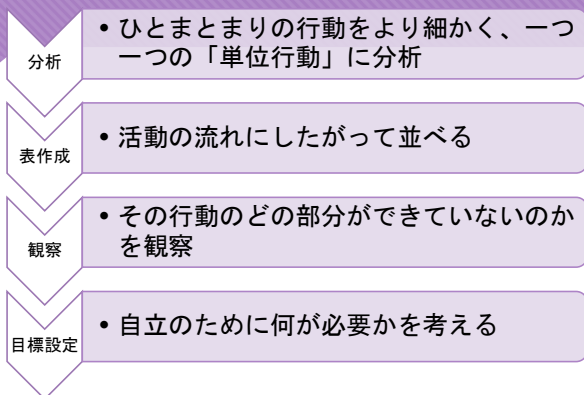
## 課題分析とは

- 支援する活動を、細かいステップに分け、具体的に客観的に行動を書きだすこと

こども発達支援センター青空

42

## 分析の手順



こども発達支援センター青空

43

## 自立はなぜ大切か？

- スキルの向上
- ひとりでできるということは・・・  
指示がない＝ストレスがない  
達成感を感じられる  
自信がつく
- これ（支援グッズ）があれば・・・  
ひとりで、どこでも、いつでも できる  
「～してください」と援助を要求できる

一人ひとりにあった自立の形がある

44

## 課題分析の仕方

- ①課題分析表をつくる：  
活動の流れにそって、単位行動ごとに記入
- ②その行動を観察：  
○、△、×など分かりやすく評価する。
- ③現在の援助方法は？：  
「声かけ」「指差し」「見本」「身体介助」等
- ④どこまでするのか、支援の部分をしぼる
- ⑤自立のための配慮を考えて、再度実施し再評価する

こども発達支援センター青空

45

## 課題分析表（コンビニで買い物）

課題分析表

目標とするスキル：コンビニの買い物

	行動	評価	備考
1	写真カードから買いたいものを1つ選ぶ		
2	買いのセットを用意する		
3	買いのセットをもって出かける		
4	コンビニに行く		
5	写真カードの商品をとる		
6	レジに行く		
7	お金を払っておつりを受け取る		
8	商品をもって家に帰る		
9			

こども発達支援センター青空

46

## 評価：実際に行い課題分析表をチェック

### 各単位行動の習得レベル

自立度 ↓	○	援助がなくても完全に自立している
	△+	確認することもあるが、ひとりのできる
	△	声かけや指さしの援助があればできる
	△-	協力的ではあるが、手助けが大部分を占める
	×	ひとりではできない。またはしようしない
	?	したことがないので分からない

こども発達支援センター青空

47

## 評価：現在の援助方法の確認

### 各単位行動ごとに必要だった援助の方法

介入度 ↓	援助なし
	声かけ
	指さし
	モデルを示す
	身体的介助

こども発達支援センター青空

48

## チェック

課題分析表

目標とするスキル：コンビニの買いもの

	行動	評価
1	写真カードから買いたいものを1つ選ぶ	○
2	買いたいもののセットを用意する	△
3	買いたいもののセットをもって出かける	○
4	コンビニに行く	○
5	写真カードの商品をとる	○
6	レジに行く	△
7	お金を払っておつりを受け取る	×
8	商品をもって家に帰る	○

指さし（促しが必要だった）

払うことができなかった

○ : 一人でできる    △ : 指示や援助でできる    × : できない

## 支援する部分をしぼり、計画を実施

- 自立のための配慮を考える
  - 取り組む場所の構造化
  - 日常生活の中に組み入れる
  - 自分で確認できるようながかりを用意
- 自立のために配慮した中で、再び実施
- 再評価
- 計画
- 実施

子ども発達支援センター青空

50

## 観察したことを記録する

- 見ただけでは忘れてしまうので、記録をする
- 記録しておいたものは、他の人との共通認識、理解のためにも役立つ



子ども発達支援センター青空

51

## どうやって、教えるかを考える

- 無誤学習
- プロンプトを用いて、できるだけ正しい反応だけが生じるようにする
- エラー（間違い）を後訂正する方法は、子どもにとって嫌悪的であり、効果的でない
- ただし、プロンプトを徐々に減らしていく手続きが必要

子ども発達支援センター青空

52

## エラー修正法

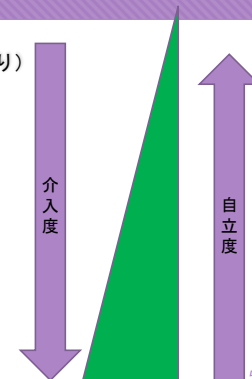
- 【バックステップ】
- 行動連鎖の支援でのエラー修正法
  - エラーが生じた時に、エラーの直前の行動連鎖のステップに戻って支援を開始すること
  - 単純にエラー（間違い）を後訂正する支援方法とは異なる

こども発達支援センター青空

53

## 様々なプロンプト法

- 視覚的プロンプト（絵や文字の手がかり）
- 言語プロンプト
  - 直接指示→「箱に入れます」
  - 間接指示→「次は？」
- ジェスチャー
  - 指差しプロンプト
- モデリング
  - 同時モデリング
  - 事前モデリング
- 身体プロンプト



こども発達支援センター青空

54

## プロンプト依存にならないために

- 【フェインディング法】
- 様々なプロンプトを徐々に減らしていくこと
  - プロンプト法を段階的に変えていき介入度を弱めていく
  - フェインディング法を行わないとプロンプト依存（指示待ち）になることが多い
- 永続的プロンプト → プロンプトを残す方法
- 視覚的プロンプト（絵や文字の手がかり）

こども発達支援センター青空

55

## 課題分析

- 単位行動を書き出してから、実際の場面で評価します。
- 評価した項目の中で、芽ばえに着目します。
- 芽ばえの項目から優先順位をつけて支援を検討します。
- 検討するときには、自立して取り組めるように検討します。
- 再度、実施して再評価を行います。

こども発達支援センター青空

56

## 再構造化

- 毎日の生活の中で繰り返し取り組む
- 評価の継続
- 再構造化を進め自立の度合いを高める
- 練習することでスキルアップを！

こども発達支援センター青空

57

## 評価から・・・

- ひとりでできることを手伝ってしまっていないか
- ひとりでできないことを「やってね」と無理にさせようとしていないか
- できると思っていたことでも、場面や相手によってできなくなっていたりしないか

ひとりでどれだけできるか、何ができて何ができていないか、どの部分ができて、どの部分ができないのか

こども発達支援センター青空

58

## よくない教え方

- 教え方が場当たりの
- 言葉が多すぎ
- 否定的な言葉
- 褒め方が漠然としている

こども発達支援センター青空

59

## よい教え方

- 情報が整理されている
  - 何をどうするかははっきりしている
  - 視覚的な提示
  - よいときは褒める
  - どの行動がいいのか、わかる褒め方
- \* (完全に身につけていないときに褒めるのをサボると消える)

こども発達支援センター青空

60

## まとめ

- 評価は支援のスタート
- 何を教えるのか、何を期待されているのが明確になっている必要がある
- 簡潔に、視覚的に、具体的に、肯定的に教える

## ご視聴ありがとうございました

- 次回12月の保護者研修も動画配信を予定しています。

